

有限会社サポートセンターわくわく
サポートセンターわくわく
放課後等デイサービス
支援プログラム

作成年月日	令和 6 年 8 月
更新年月日	令和 8 年 3 月 31 日
法人（事業所）理念	1. 利用者の支援にあたっては、安全を最優先し、事故・ケガ、ゼロを目指す 1. 利用者の声に耳を傾け、利用者主体のサービスの提供に努める 1. 常に最適の支援技術、知識、笑顔を以って支援にあたる 1. 自ら課題に取り組み、自分を成長させ地域社会に貢献できる人になる
支援方針	サポートセンターわくわくは、子どもの療育の場、保護者の子育てを応援する場です。 集団活動・グループ活動・個別活動を通して、お子さん一人ひとりの個性と可能性を伸ばすことをお手伝いします。 また、お子さんやご家族の想いに寄り添い、子どもの事を一緒に考え、家族とともに地域の中で育っていくことを支援していきます。
営業時間	午前 9 時～午後 6 時 30 分 営業日：月曜日～土曜日 閉所日：12 月 30 日～1 月 3 日
送迎実施の有無	あり

★一日の流れ（学校の日）★

- ・来所（学校へお迎え）
- ・靴やカバンの片付け
- ・あいさつ活動
- ・個別活動
- ・活動
- ・おやつ
- ・自由遊び
- ・お片付け
- ・帰りの会
- ・帰宅（送迎または保護者迎え）

★一日の流れ（学校休業日）★

- ・来所（送迎または保護者送り）
- ・靴やカバンの片付け
- ・自由遊び
- ・お片付け
- ・あいさつ活動
- ・個別活動
- ・活動
- ・お昼ごはん（お弁当）
- ・お着替え、トイレ、リラックスタイム
- ・活動
- ・おやつ
- ・自由遊び
- ・お片付け
- ・帰りの会
- ・帰宅（送迎または保護者迎え）



支援内容	
家族支援	・子どもの様子の申し送り（事業所での様子やご家庭や学校での様子を共有、情報交換をしながら子ども成長を確認し、保護者の困り感に寄り添う。） ・面談の実施（送迎時、電話、面談室の設置） ・ペアレント・トレーニングなど、研修会などの情報提供を行う
移行支援	・学校、学童や他の放課後等デイサービス、生活介護や就労支援事業所への移行会議の実施 ・地域との交流（学童・児童館など）
地域支援・地域連携	・近隣の商業施設への買い物学習 ・地域の公共施設の利用（図書館・児童館、公園など） ・避難訓練を通して、地域住民との連携 ・季節の行事を通して、地域の方と交流（ハロウィンなど） ・民生委員さんと交流
職員の質の向上に資する取り組み	・事業所内研修 ・法人研修（年４回） ・実践報告会（年１回） （※事業所内研修、法人研修で、法定研修、アンガーマネジメント、自己理解・他者理解、療育についての研修をおこないます） ・日々の職員ミーティング、振り返り ・外部研修への参加、共有
主な行事	季節の行事（母の日制作、父の日制作、鯉のぼり制作、水遊び・プール、ハロウィン、クリスマス会、初詣、七五三祝い、ひなまつり、卒業パーティ、遠足、節分など） ・作品展に出展 ・手作りお祭り

５領域について	
① 健康・生活	・学校での引き継ぎ時や来所時に心身の状態（検温、手指消毒、顔色や心の様子、トイレ状況など）の確認と把握を行います。 ・活動を通して、生活習慣や生活リズムが整うように、家庭と連携して支援します。 ・スケジュールの視覚化など、障害の特性に配慮して、安心して活動に参加できる環境を整えます。 ・食事や排泄、着替えなど、個々のペースに合わせた声掛けや促しを行い、生活スキルが身につくように支援します。
② 運動・感覚	・日常生活や遊びの中で、姿勢や運動・動作の基本的な身体活動を習得できるように支援します。 ・遊びの中で、さまざまな感覚に触れ、楽しみながら体験できるように工夫します。 （活動例：だるまさんがころんだ、風船あそび、粘土あそび、手指の運動（洗濯バサミの練習やビーズ通しなど） ・感覚の特性を踏まえ、環境調整に配慮し支援します。（イヤーマフの活用など）

③ 認知・行動	・本人に合った丁寧な伝え方で、物事の考え方や理解について支援していきます。 ・日常生活の様々な場面の中で、物の機能や属性、形、色、音が変化する様子、大きさ、数、重さ、空間、時間等の概念を伝え、学ぶ場を設定します。（活動例：塗り絵、パズル、カラーボール遊び、点つなぎ、クッキング、箱の中身はなんだろうなど） ・環境や認知、言葉の理解の困難から生じる行動障害の予防や改善に向けた支援を行ないます。 なぜこのような行動をするのか氷山モデルに照らして、なぜなのかを探っていきます。
④ 言語・コミュニケーション	・言葉によるコミュニケーションだけではなく、身振り手振り、表情、全身を使っでの表現を通して、意思のやり取りが安心して行えるように関わります ・言葉でのやりとりや、絵本、歌、ふれあい遊びを通して、多くの言葉に触れる機会を持ちます。 ・支援者や子ども同士のやり取りを通して、コミュニケーション能力が向上するよう丁寧に関わります。 （活動例：ジェスチャーゲーム、おもちゃの貸し借り、相談・交渉、お返事や発表） ・文字や記号、絵カード、機器等のコミュニケーション手段を適切に活用して、理解や意思の伝達がスムーズにできるよう支援します。
⑤ 人間関係・社会性	・子どもが安心して過ごせるよう、丁寧に信頼関係を築いていきます。 ・子どもの「やりたい」想い（意思）を基本に、無理強いせず、一人遊びの状態から、平行遊びを行い、集団での共同遊びに発展できるように関わります。 ・集団の中で、手順やルールのある遊びを通して、相互理解やお違いの存在を認め合いながら、仲間作りにつながるように関わります。 （活動例：ごっこあそび、ルールのある遊び、集団遊びなど）

